



第 67 号

〒108-0014 東京都港区芝四丁目一番三〇号
TEL 〇三―四五一―〇九一二 FAX 〇三―四五一―〇九〇二
TEL 〇三―四五一―〇九一二
加印者名 〇〇1801491261
加入者名 東京女子学園清香会
編集責任者 奴田 原 希 菜 行
印刷所 キンコーズ・ジャパン株式会社



令和6年度 清香会総会報告

～学園ルナホールにて～

晴天に恵まれた10月26日(土) 学園6階のルナホールにて令和6年度の清香会総会が開催されました。令和4年度で前役員の任期満了後、役員が決まらず会長不在の令和5年度の清香会総会を見送り、2年ぶりに会員の皆様と集うことが叶いました。

学園側より高津理事長・吉野校長・棚橋理事の出席を得て開会となりました。宮間道子さんの開会の辞を受けて、高津理事長のご挨拶では、120周年を迎えられたこと、東京女子学園の生徒達の様子、芝国際の生徒達の様子、芝国際の生徒達の様子と学園が進化変容していく状況のお話がありました。棚橋理事からは、東京女子学園の生徒達に手厚く、どこまで支援できるかを模索しているお話がありました。今年度より着任された吉野校長からは生徒達に清香会がどのような会かと繋げていけるようにしていくとお話がありました。

続いて今年度より新会長となりました池田喜久恵会長の挨拶では、周年記念を清香会としてお祝いの会が開催できなかったことの反省、



また東京女子学園の白線が見られなくなることへの思い、現在の生徒たちが卒業するまで皆様のお力をお借りして最後まで見届けていきたいと思います。山内浩恵副会長の司会進行に従って、議事に移り①奴田原副会長より前役員の任期満了後、副会長のみ選出されていた状況下からの周年記念行事、激動の日々の活動報告②石坂真実さん、大野史恵さんから会計報告③和久井理恵さんから会計監査報告④石坂さん、大野さんから来年度の予算案が示され、出席者の拍手を持って了承を得ました。

⑤奴田原副会長より会則について今一度見直し、来年度の総会で会員の皆様にお見せし、了承が得られれば

清香会会長を受けて

(高校17回生) 池田 喜久恵

令和6年度より会長の重責を担う事になりました。令和5年東京女子学園創立120周年の最後の記念行事を清香会として行う事ができず残念に思いました。これも会長他役員不在という為でした。清香会を今一度、微力ながら会長を受けて、4年後東京女子学園高等学校を卒業する最後の生徒達の巣立を見届けたい。また、同窓会としての清香会がパトンを芝国際中学校・高等学校へ渡したいという一念でございました。令和6年度より事務局も船出するこ

ている事を丁寧な説明がありました。議事終了後は歓談の時間となり、久しぶりに再会した同級生や部活動の先輩・後輩、今年度より特別会員になってくださった辰巳順子先生よりお話を頂いたり6回生の方からお話を聞いたり皆さん談笑で楽しめました。お開きの時間が迫り、最後は120周年記念式典で流した映像を見た後に新調したCDの音源に合わせて校歌で高らかに斉唱を行いました。多くの皆様にご参加いただきましたこと感謝

至極のひと時でした。また、今後の清香会の進め方、運営、幹事立候補などご意見・ご希望をメール、書面でお送りください。年会費二千円また、今後の事業にご賛同の方は心付けも合わせて郵便局備え付けの振込用紙にてお送り下さい。口座番号は上記に記載しております。ご氏名(旧姓)・お名前下の番号(回生、卒業年度でも可)もお願いします。

清香会では学園創立120周年を記念して、創立当初から歌い継がれている私たち卒業生のよりどころである校歌を管弦楽演奏で整えCD音源にいたしました。また学園の制服を着たリカちゃん人形も制作しました。ご希望の方はメールにて清香会事務局「校歌CD係」リカちゃん人形係までお知らせください。追ってご連絡いたします。

seikoukai@tokyo-joshi.ac.jp (文責 編集部)



▲校歌CD

親会
サンドイッチを食べながら6回生から新高校卒業生まで学校の先生方も多数出席して下さり、昨年は100名の集いでした。感謝いたします。年中行事は3つのイベントが主ですが、事前に常任幹事会が開かれ、話し合いを重ねております。今後は会則の見直し、年会費、名簿の整理等と山積みとなっております。一つずつ解決していく所存です。皆様のご協力、ご支援を心より申し上げます。東京女子学園としては、4年後フィナーレを迎えます。しかし、学校法人東京女子学園は永遠です。また共学校となる芝国際中学校・



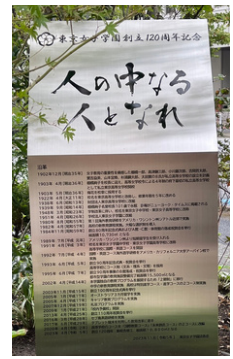
▲梅香祭 卒業生の部屋

令和6年度 新事務局員
()は回生
会長 池田喜久恵 (17)
副会長 山内 浩恵 (31)
会計 奴田原希菜 (58)
石坂 真実 (54)
大野 史恵 (55)
近藤 桃代 (29)
和久井理恵 (35)
会計監査 近藤 桃代 (29)
和久井理恵 (35)
会計アドバイザー 木野 弘子 (37)
吉田 紘子 (48)
藤田 紗良 (68)
野村ふくの (71)



▲リカちゃん人形

創立百二十周年事業



▲記念モニュメント



▲東京女子学園120周年記念ビデオ(67回生西山さんナレーション担当)



▲東京女子学園校歌動画【歌詞入り】

創立百二十周年を迎えて

理事 棚橋毅

120年前、東京女子学園は女性教育の発展と進歩を目指しその第一歩を踏み出しました。当時の社会状況や教育環境は、今とは大きく異なり多くの困難が伴っていました。しかし、創設者たちの情熱と決意、そして絶え間ない努力により数多くの優秀な女性を輩出してきました。

令和5年11月18日に新校舎のお披露目も兼ね、学園の120年の歴史を振り返り、その努力と成果を称え、未来への新たな一歩を踏み出すことを目的として「感謝・祝賀・希望」を掲げ周年式典を実施しました。式典は午前の部と午後の部に分けて実施しました。午前の部は在校生と教職員の参列のもと清香会鷺鳴会の各役員、旧教職員をお招きしました。また、ガーデンの設計デザインを手掛けて頂いた石原和幸氏の講演会、新校舎に関わって下さった隈研吾さんからのメッセージビデオを流しました。約800名の盛大かつ厳かな式典となりました。

午後には、港区長、都議会議員、私立学校関係者など約200名の方をお招きし、生徒代表の喜びの言葉や吹奏楽部の演奏の後、新校舎の見学会を実施しました。新校舎は、「未来創造の学び舎」というコンセプトのもとに設計、探究的な学びを実践できる設備や、ダイナミックな表現を可能にする開放的な空間を提供し、既存の学校建築とは異なり斬新かつ最先端の校舎となったため、好評を博しました。午前の部・午後の部ともに「120周年記念動画」と「校歌の動画」を流しました。その動画を配信していますので興味のある方はぜひ視聴下さい。また、新校舎の見学にもお越しください。この学園で学び、成長し、多くの知識と経験を得た卒業生は各分野で活躍し、社会に貢献しています。その姿勢は、学園の誇りであり、未来の生徒たちへの素晴らしいロールモデルです。東京女子学園中学高等学校は、少子化やジェンダーフリー

の推進、男女共同参画の重要性、受験生の共学化志向や大学付属志向の高まりなど社会の変化と時代の要請に 대응するために、芝国際中学・高等学校と名称を変更し共学化しましたが、これからは、東京女子学園の歴史と伝統を大切にしながら、新たな挑戦を続けていきます。卒業生の皆様には今後とも学園を応援して頂きたくお願い申し上げます。最後に、学園の発展に寄与してきた全ての方々、そして現在も日々努力を重ねている教職員、保護者、生徒、清香会、鷺鳴会の皆様のご尽力に感謝し、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

令和5年11月18日に新校舎のお披露目も兼ね、学園の120年の歴史を振り返り、その努力と成果を称え、未来への新たな一歩を踏み出すことを目的として「感謝・祝賀・希望」を掲げ周年式典を実施しました。式典は午前の部と午後の部に分けて実施しました。午前の部は在校生と教職員の参列のもと清香会鷺鳴会の各役員、旧教職員をお招きしました。また、ガーデンの設計デザインを手掛けて頂いた石原和幸氏の講演会、新校舎に関わって下さった隈研吾さんからのメッセージビデオを流しました。約800名の盛大かつ厳かな式典となりました。



▲新校舎と入り口の大階段

就任のご挨拶

校長 吉野 明



昨年4月より、東京女子学園中学校高等学校の校長を務めております吉野明です。

私は約30年前から、当時の理事長・校長であった實吉幹夫先生にお世話になっていました。本校で私学の先生方が集まる研究会が開かれ、實吉先生から多くのことを学ばせていただいたのです。「うちを手伝ってくれないか」とお声をかけていただいたこともありました。

實吉先生が2020年に急逝され、女子教育に長年携わってきた私は、2021年よりアドバイザーとなりました。2022年に突然、共学校化が発表されたため、一度は退職したのですが、「女子校は続ける」とのお話を受け、再び戻ることにしました。

この間、皆さまには大変なご不安とご心配をおかけし、誠に申し訳ございませんでした。先日、東京女子学園のHPをリニューアルし、在校生の「今」の様子をご覧いただけるようになりました。この春には高校生3学年計28名となりますが、2028年春に最後の卒業

生が誇りをもって卒業できるよう取り組んでまいります。

また、今後も卒業生の皆さまにとっての「母港」が失われることのないよう、皆さまのご協力を賜りながら努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

「学習する学校の生徒たち」

理事長 高津 稲穂

今、人口知能は人間より比較にならない速度で学習中、まもなく人間を超越する日が来るとも言われています。

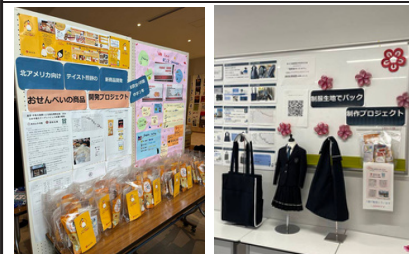
学校(School)とはギリシャ語のスクレ(skhole)を起源とし、元はレジャー(余暇を意味する語です。時を重ね「教育のための場と機会を提供する」意味に発展してきました。

学校で学ぶことは深く個人的なもので、本質的に社会的なものです。すべての社会が生きていくことと学ぶこととのつながりを何よりも大切と考えるならば、学校はその役目を果たせているのか? 命令、順位付けなど過度な管理から学習の方向付けを共有し、持続可能性のある、生き生きとした創造的な場にアップデートできないか? この制度ではない環境を「学習する学校」と考え、次の120年への挑戦として活動加速しています。

学校では、生徒たちは予測がつかない未来において、



▲玄関に咲く梅



▲OJバッグ

▲お煎餅

また食品会社が海外進出のための製品開発で、連携企画したお煎餅などを販売する経験や、制服の在庫生地から伝統の白線入り布製バックを卒業生の方との連携で企画、製造、販売も体験しました。

さらに生成AIについて理事会、教職員、生徒に加え清香会の有志の方もご参加いただき、多世代ディスカッションも開催中です。



▲生徒とディスカッション中

真の国際人育成を目標とする学園の教育活動は、内向きと心配される社会を横目に、世界各国への留学、研修へ向かう生徒が途切れなく続いています。グローバル観から多様な人間関係を繋ぎ、あらたな共創への可能性を実感しているのではと感じています。

これらの学び、体験からの幅広い構想力や知の創造にどうぞご期待いただき、みなさまもその学びの仲間となって応援いただければ幸いです。